連続歴史講座

祈りと祭りの考古学

2016年9月24日（土）13:00～
愛知県埋蔵文化財調査センター２階研修室

縄文のいのり

川添和暁
（愛知県埋蔵文化財センター調査研究専門員）

キーワード：破壊と改変、反復性と更新、魂送り場

１万年以上の時間幅を有する縄文時代においては、地球規模の気候変動に伴う大きな環境変化などが幾度となくあった。この時代の舞台となる日本列島内にはさまざまな風土があり、時期・地域ごとに多様な文化様相が表出していた。縄文時代は、いわば風土とともに活動していた時代であったともいえる。

縄文時代の信仰や祭祀などについての、これまでの研究史を振り返ると、山や太陽・月など自然への敬意や信仰に根ざしたもの、死と再生という思想に根ざしたもの、あるいは当時の社会を維持・確認するための社会と個々人における集団の同一性の確認のため、などの議論があった。前者は継続した季節変化の循環、後者は近年の社会の複雑化ともいわれる現象につながるものでもある。これらの背景には、性的原理や年齢階梯的な事情が常に存在していたことは言うまでもない。

そもそも、祈りや祀りなどといわれる祭祀行為は、当時の活動行為の中で決して単独に遊離しているものではない。祭祀行為は生業・製作・集落・墓制などの諸活動の中から生じたもので、この諸活動の継続や社会の維持にとって、必要とされた活動であった。

本講座では、最新の調査成果も踏まえて、遺跡・遺物に残された活動痕跡から、当時の祭祀行為について紹介する。主たる対象時期を縄文時代後晩期とし、考古学的な方法論としては、遺物のライフサイクル論と遺跡形成過程の検討に重点を置く。前者からは、祭祀行為における改変･破壊（ものによってはさらに改変）行為から廃棄（埋納）へのあり方、後者からは、繰り返しの場の利用（反復性と更新）というあり方が見えてくる。

祭祀関連の遺物としては、注口土器・土偶・石棒・岩偶岩版類などが代表的である。いずれも、祭祀行為の中で、形が変形していくものではあるが、そ 【※ 16 頁下段に続く】

次回は１０月　8日（土）「弥生の農耕祭祀」永井宏幸

お問い合わせ先
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
〒498-0017　愛知県弥富市前ケ須町野方 802-24
Tel. 0567-67-4163　Fax.0567-67-3054
http://www.maibun.com/top/

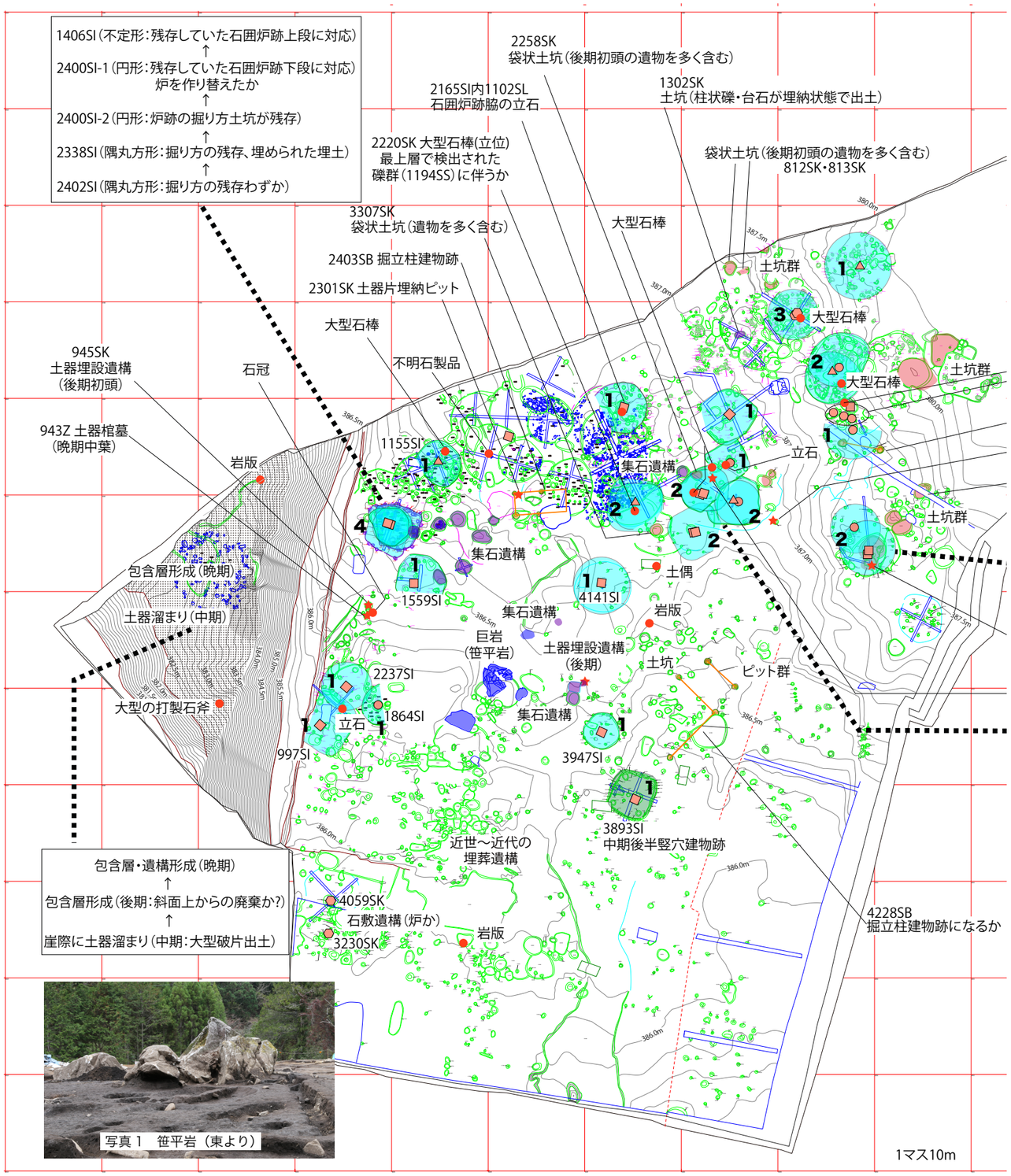


図１　愛知県北設楽郡設楽町 笹平遺跡 遺構全体図（1:500）

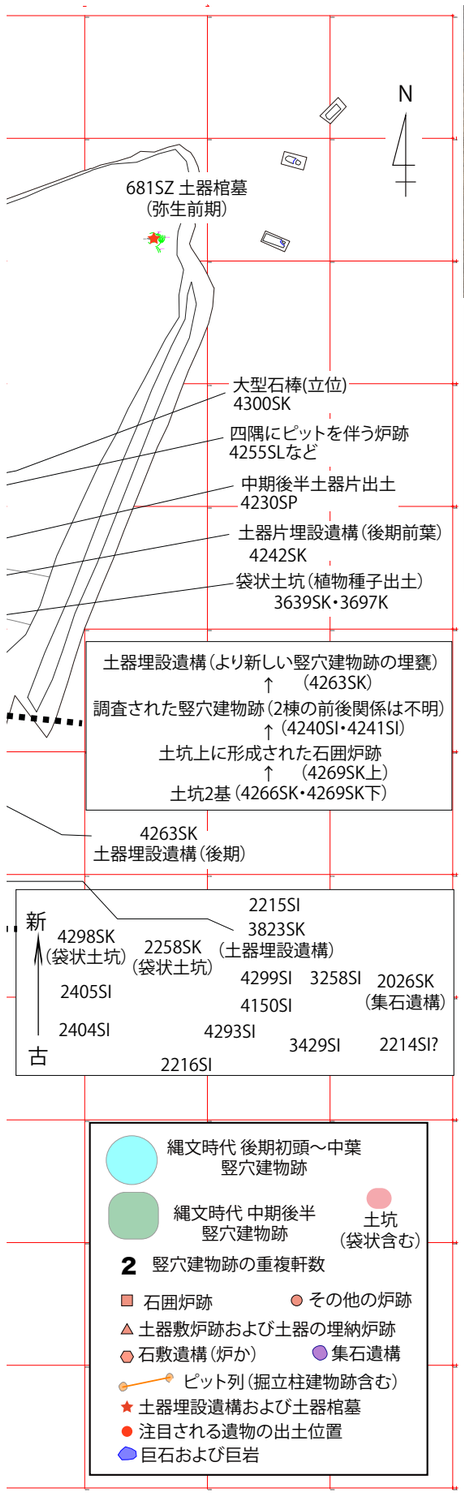


写真 2-1
Cb 区 縄文時代
後期炉跡
4255SL
（南より）

Bb 区 縄文時代後期？石棒埋設土坑
2220SK 土層断面（南より）

Bc 区 縄文時代後期？柱状礫埋設土坑
2278SK 土層断面（南より）

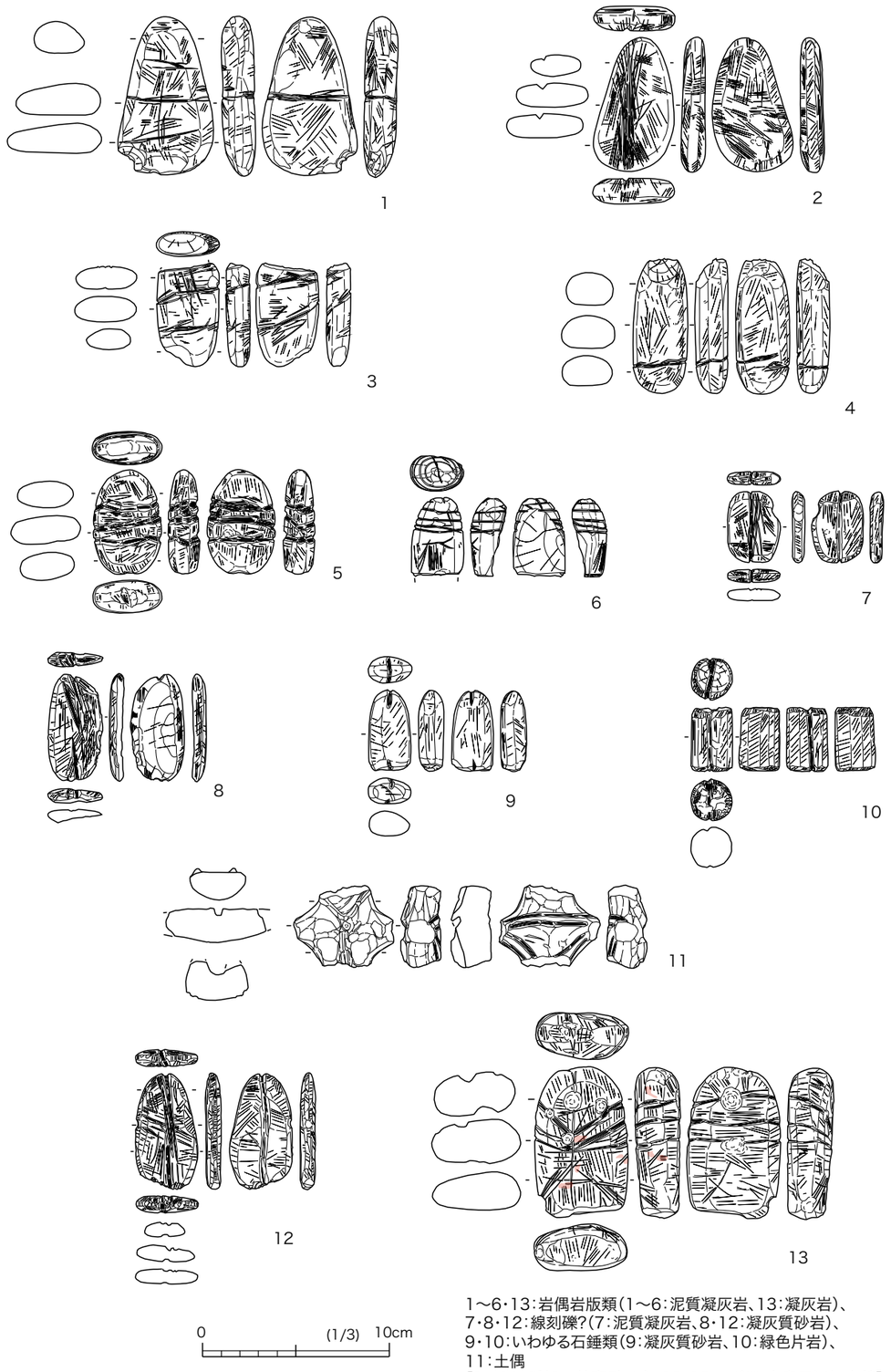
Bb 区 縄文時代後期？柱状礫など埋納土坑
1302SK（西より）

Bb 区 縄文時代後期集石遺構
1238SK（西より）

写真 2-6

笹平遺跡で見つかった石製の祭祀具（大型石棒・石棒石刀類・独鈷石・石冠・岩偶岩版類）

写真２　笹平遺跡遺構・遺物写真　※ 愛知県教育委員会所蔵



1〜6･13：岩偶岩版類（1〜6：泥質凝灰岩、13：凝灰岩）、
7･8･12：線刻礫?（7：泥質凝灰岩、8･12：凝灰質砂岩）、
9･10：いわゆる石錘類（9：凝灰質砂岩、10：緑色片岩）、
11：土偶
【1〜11：愛知県教育委員会、12･13：設楽町立奥三河郷土館】

図２　笹平遺跡出土　岩偶岩版類・線刻礫・土偶など　　※愛知県教育委員会所蔵

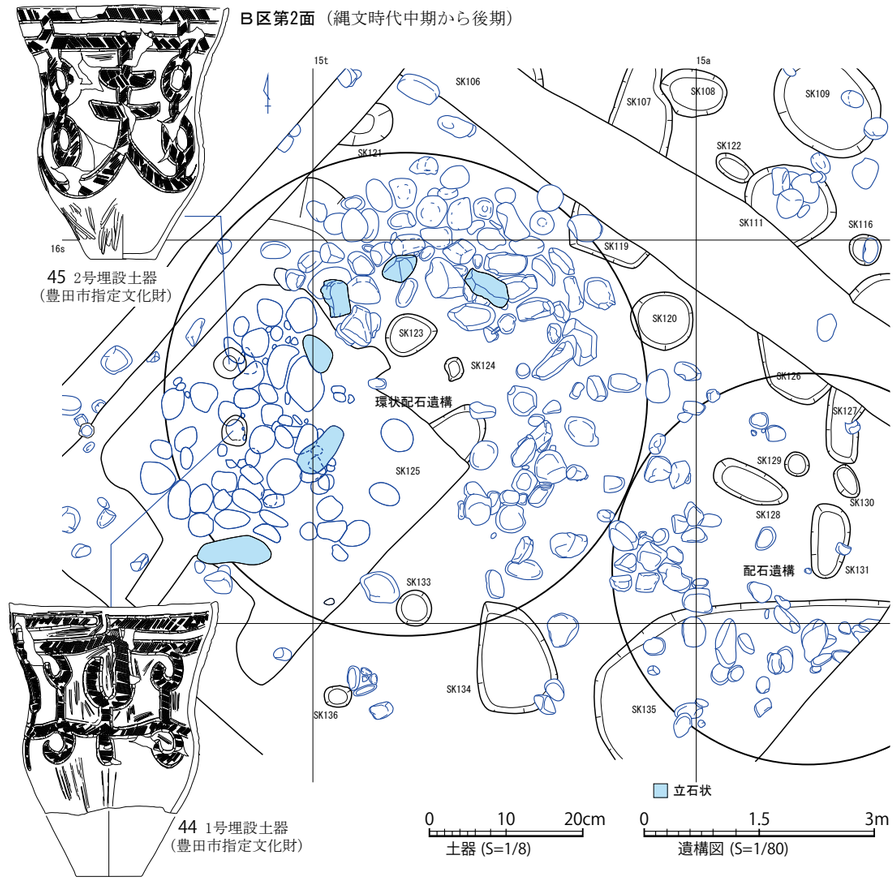


図３　豊田市 水汲遺跡 配石遺構【後期初頭】（長田友也 2011「水汲遺跡」『新修豊田市史 資料編 考古Ⅰ旧石器・縄文』226 〜 243 頁 豊田市 より改変）

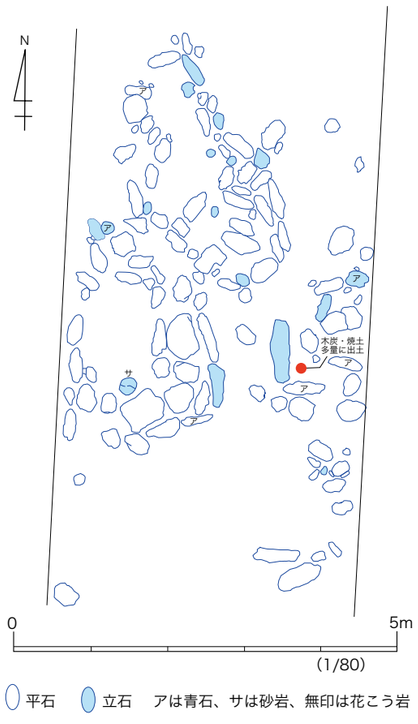


写真３　静岡県浜松市天竜区 半場遺跡 配石遺構【後期前葉〜晩期】（大場磐雄 1933「新たに発見した石器時代敷石住居址」『上代文化』10. 28 〜 41 頁 上代文化研究会 より改変）

図４　静岡県浜松市天竜区 半場遺跡 配石遺構【後期前葉〜晩期、写真３の西方で検出されたもの】（大場磐雄 1933「新たに発見した石器時代敷石住居址」『上代文化』10. 28 〜 41 頁 上代文化研究会 より改変）

写真４　愛知県北設楽郡設楽町 滝瀬遺跡 敷石建物跡【後期前葉】

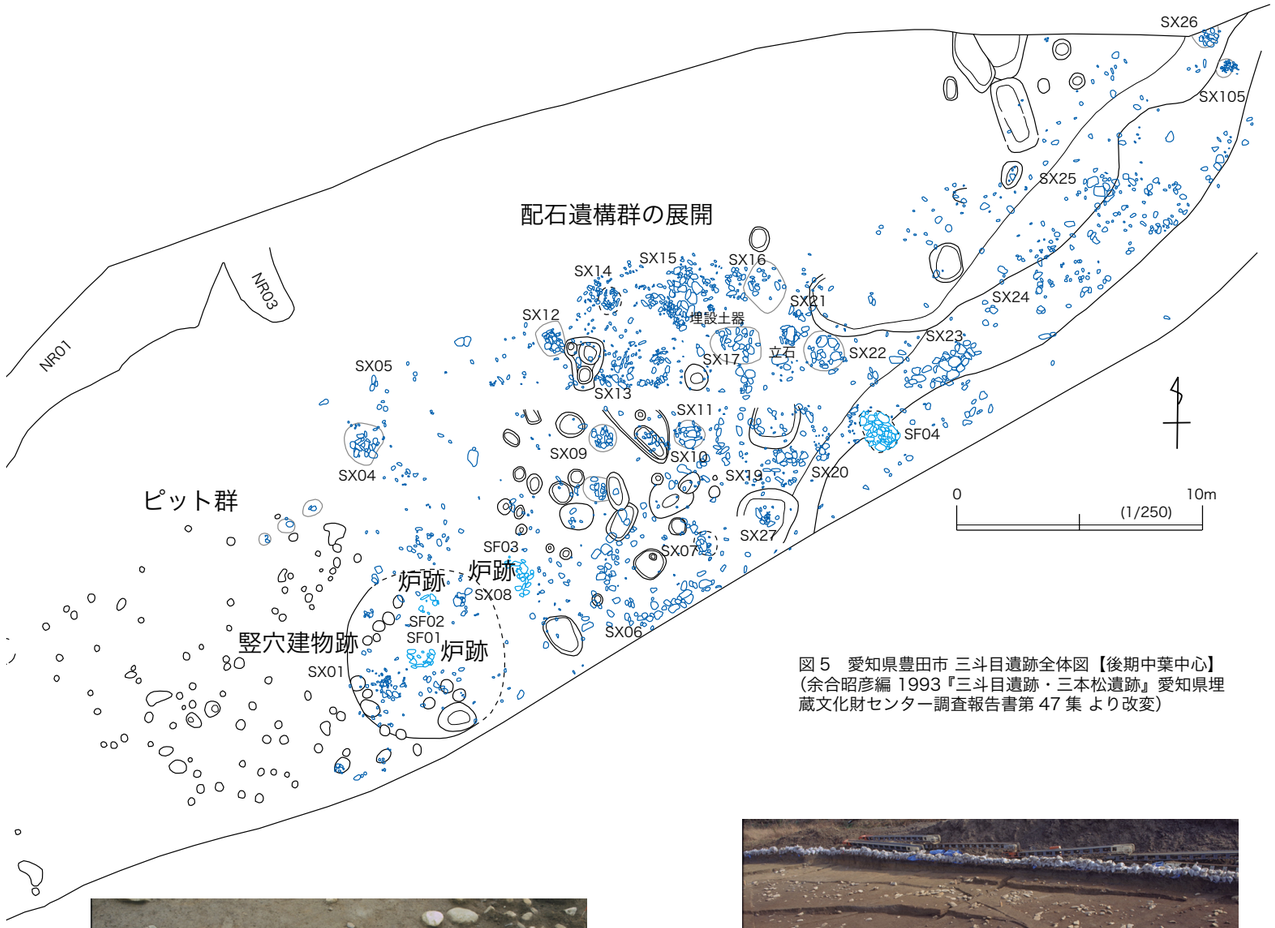
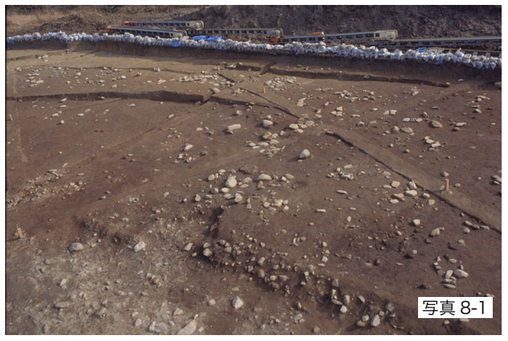


図５　愛知県豊田市 三斗目遺跡全体図【後期中葉中心】
（余合昭彦編 1993『三斗目遺跡・三本松遺跡』愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第 47 集 より改変）

写真５　三斗目遺跡 配石遺構

写真６　三斗目遺跡 石棒など
出土状況

写真７　三斗目遺跡 分銅形土偶
※　豊田市教育委員会所蔵



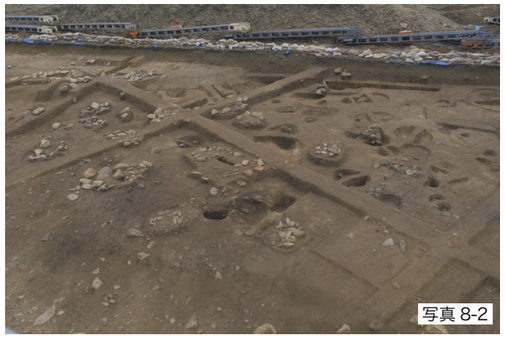


写真８　三斗目遺跡 配石・礫と包含層堆積状況
（写真 8-1：礫検出状況、　写真 8-2：包含層掘削後の状況）

写真９　岐阜県恵那市 道下遺跡 4 号住居跡出土土偶
※　恵那市教育委員会所蔵

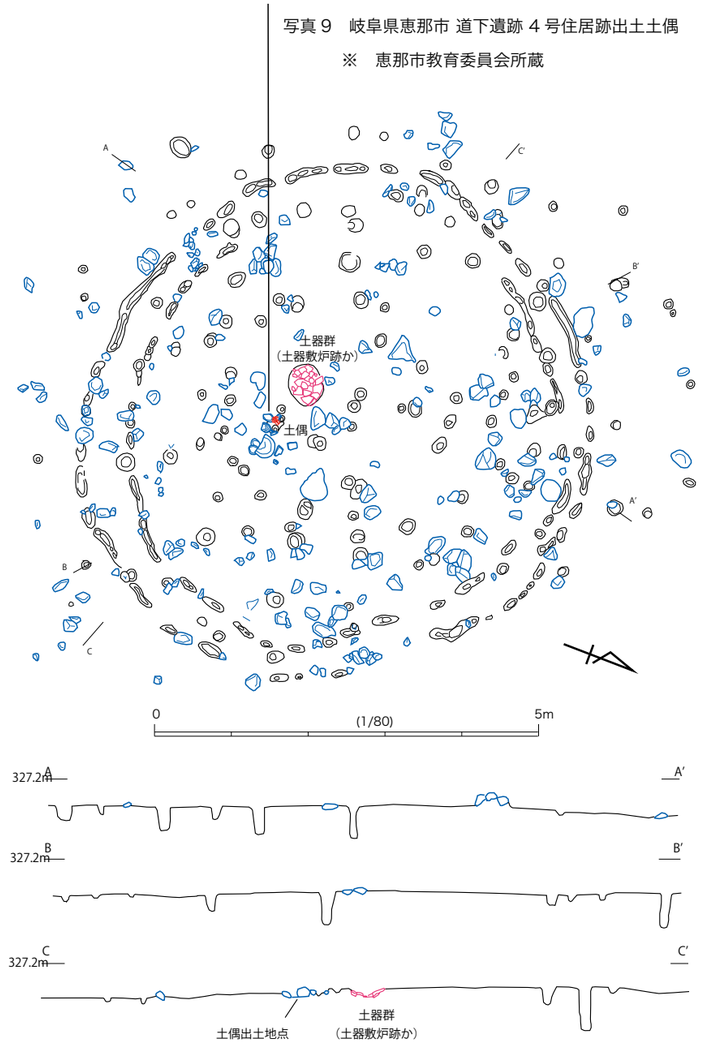


図６　岐阜県恵那市 道下遺跡 4 号住居跡【後期中葉中心】
（松田典人編 1983『道下』上矢作町教育委員会 より改変）

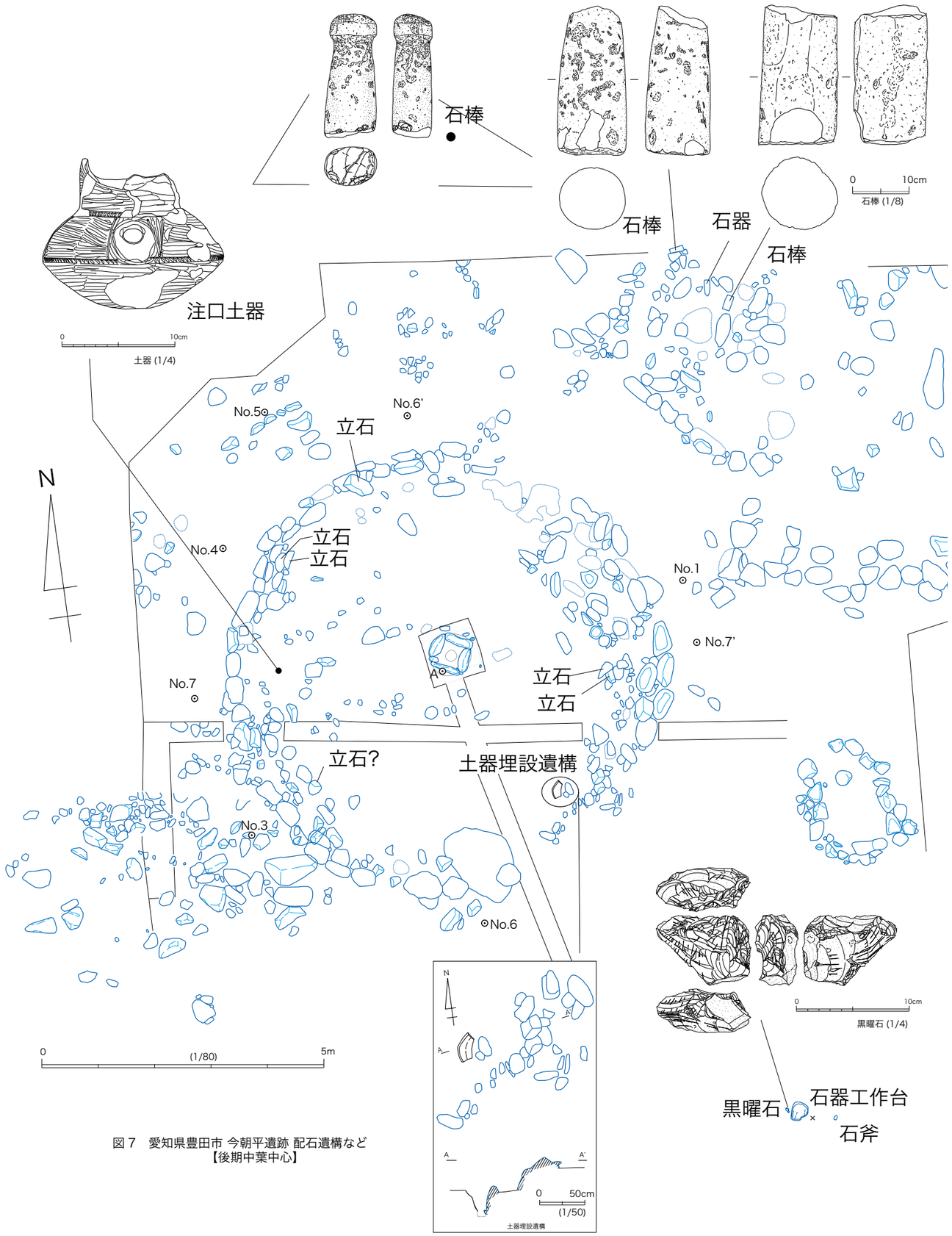


図７　愛知県豊田市 今朝平遺跡 配石遺構など
【後期中葉中心】

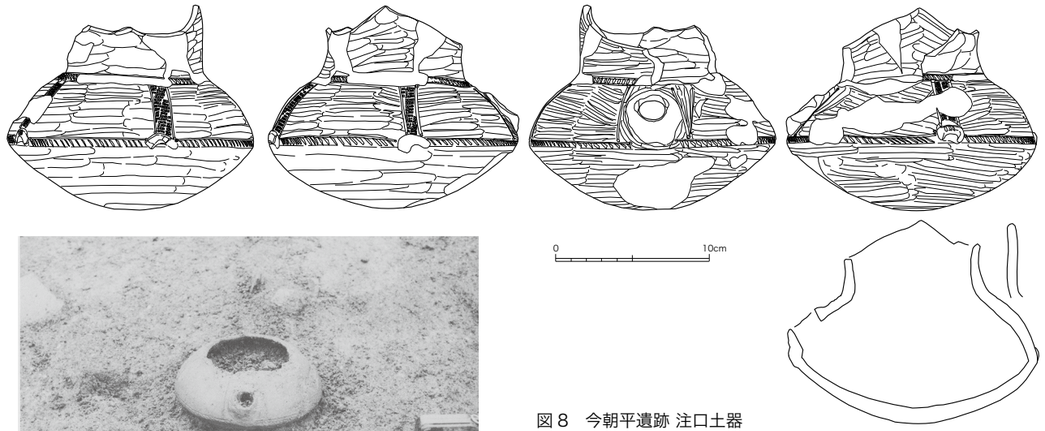


図８　今朝平遺跡 注口土器

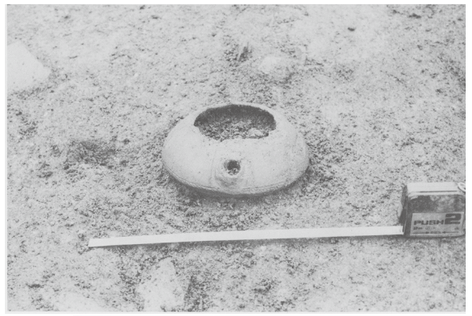


写真 10　注口土器出土状況（天野暢保・鈴木茂夫・鈴木昭彦 1979『今朝平遺跡概報』 足助町教育委員会 より）

写真 11　今朝平遺跡出土注口土器

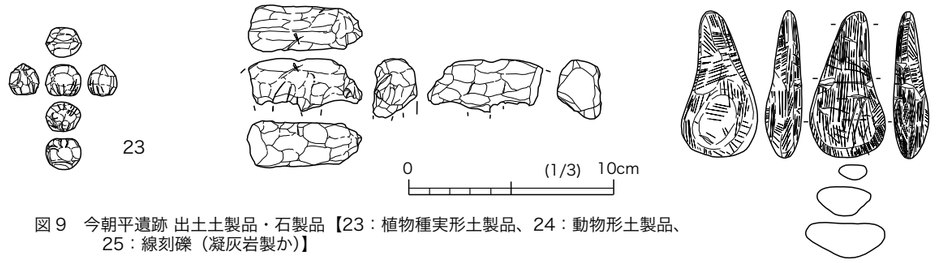


図９　今朝平遺跡 出土土製品・石製品【23：植物種実形土製品、24：動物形土製品、25：線刻礫（凝灰岩製か）】

写真 12　今朝平遺跡出土土偶（川合剛ほか 2011『新修豊田市史 資料編 考古Ⅰ旧石器・縄文』 豊田市 より改変 ）

※　今朝平出土資料は豊田市教育委員会所蔵

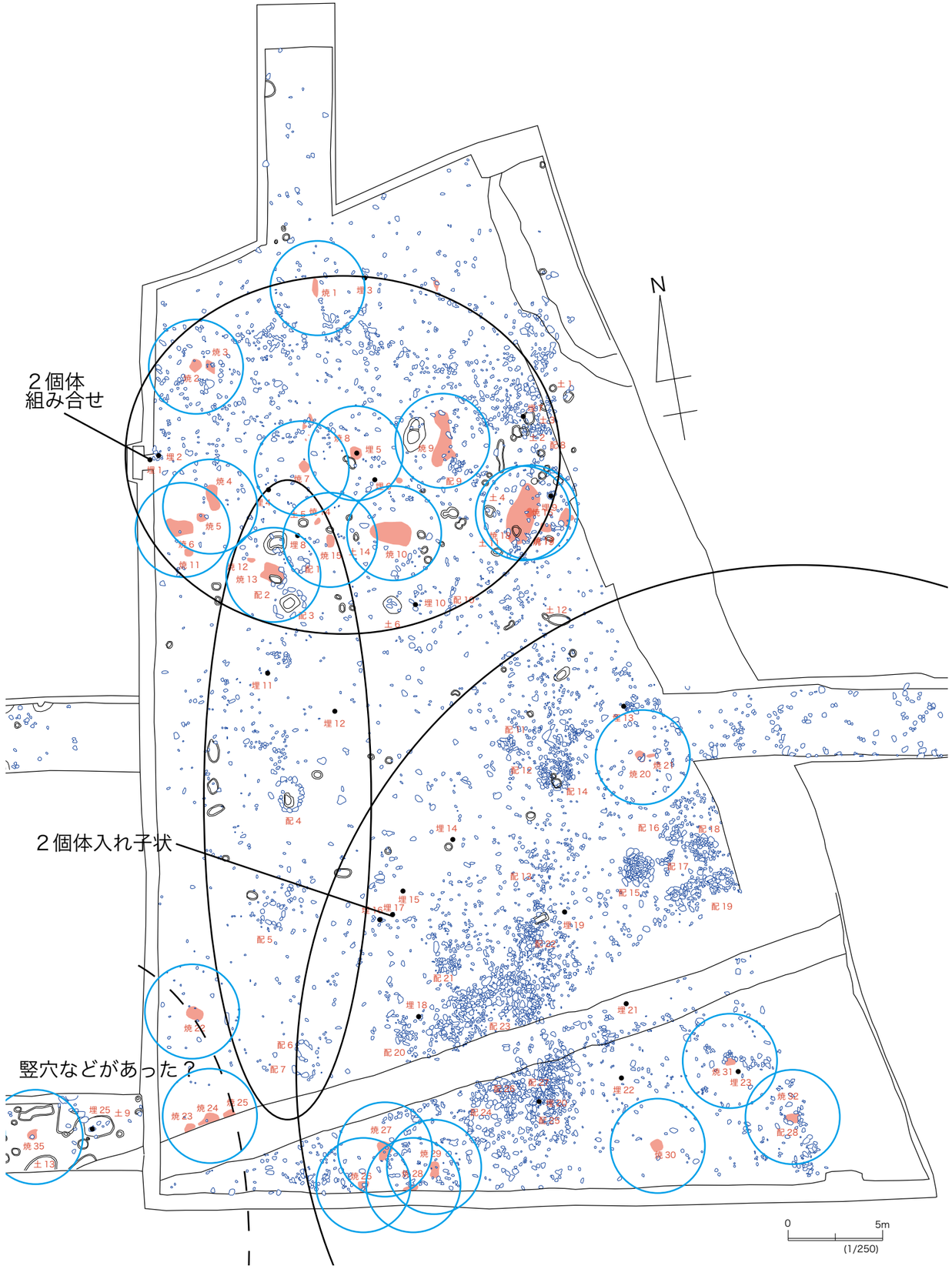


図 10　三重県松阪市 天白遺跡 全体図【後期中葉～晩期初頭】（森川幸雄 1995『天白遺跡』三重県埋蔵文化財センターより改変）

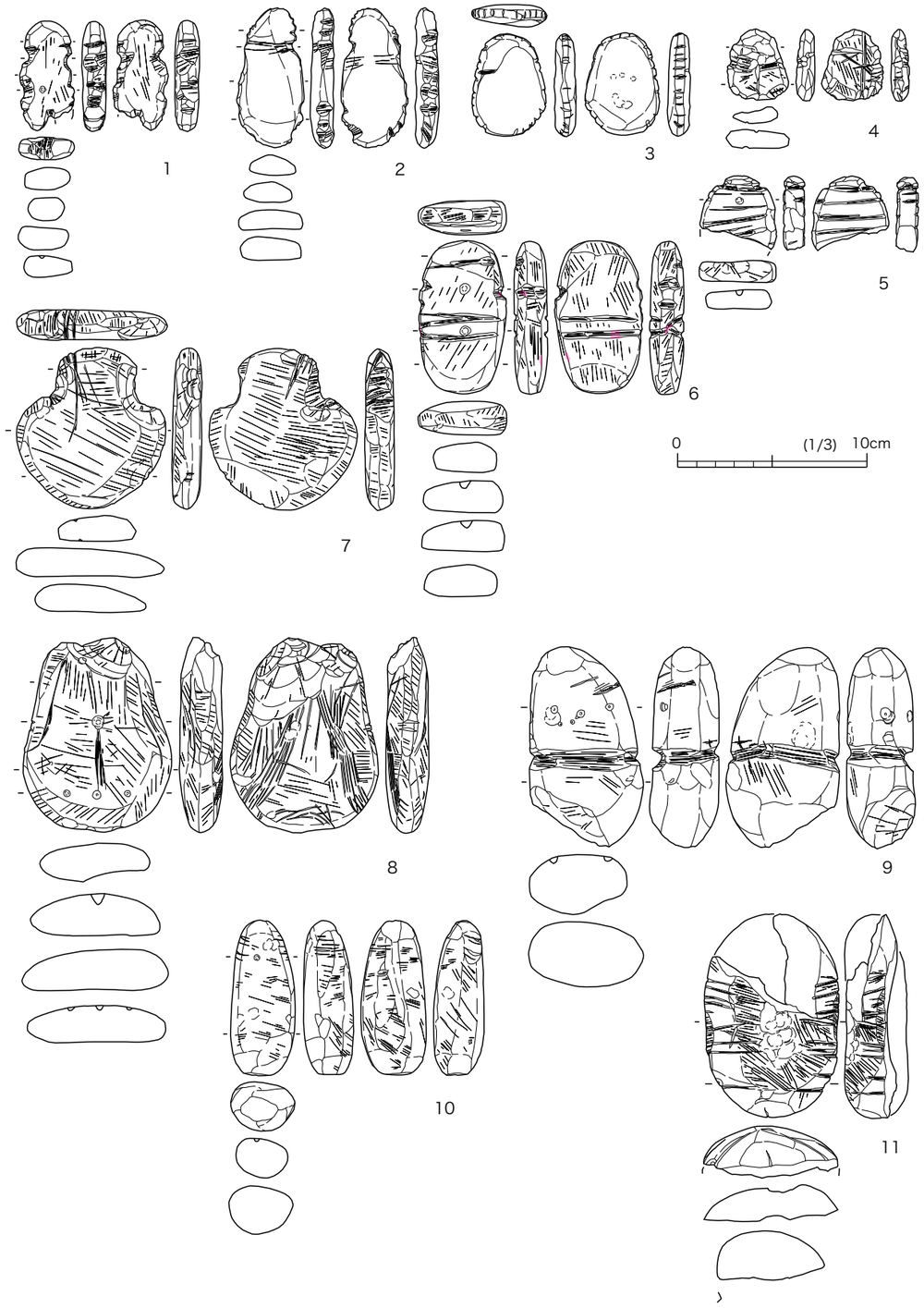


図 11　天白遺跡 出土岩偶岩版類（石材は砂岩）　※三重県教育委員会所蔵

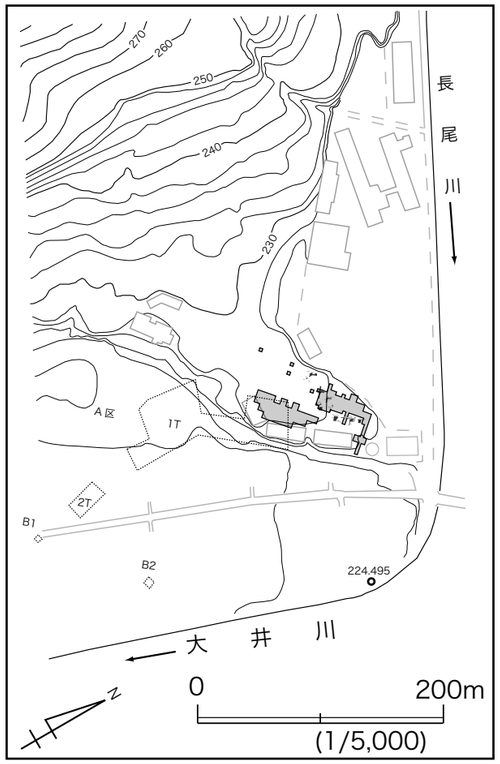


図 12　静岡県榛原郡川根本町 上長尾遺跡全体図【晩期前半中心】

（　鈴木弘蔵ほか 1953「上長尾遺跡調査報告」『大井川流域の文化』5 ～ 27 頁　静岡県立島田高等学校郷土研究部
小林孝子ほか 1956「上長尾遺跡調査報告」『大井川流域の文化』III.1 ～ 15 頁　静岡県立島田高等学校郷土研究部
池田純・青木克巳ほか　1977『上長尾遺跡 I』　中川根町教育委員会
松浦哲二・飯塚博和ほか 1978『上長尾遺跡 II』　中川根町教育委員会
瀬川裕市郎・山崎克己ほか 1992『静岡県史 資料編３ 考古三』静岡県　より作成　）

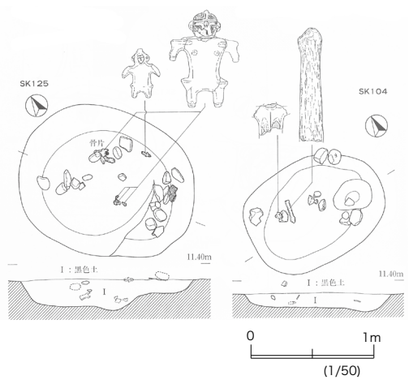


図 13　愛知県豊川市麻生田大橋遺跡 土偶・石棒出土状況【晩期末～弥生時代前期】
（ 前田清彦編 1993『麻生田大橋遺跡発掘調査報告書』豊川市教育委員会　より ）

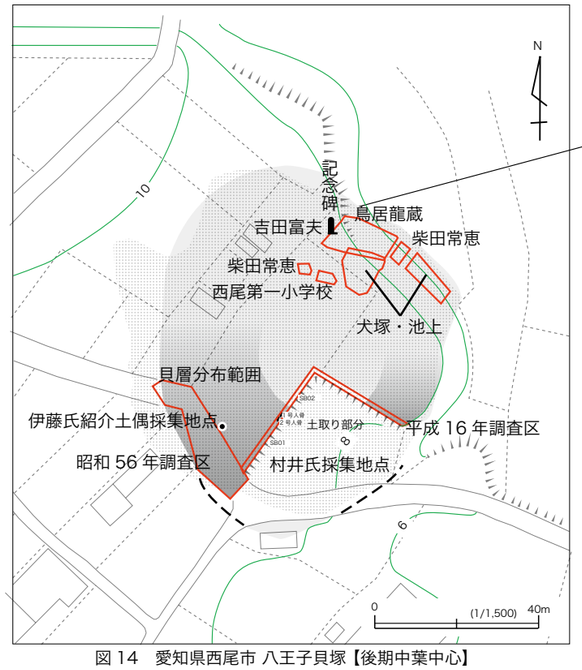


図 14　愛知県西尾市 八王子貝塚【後期中葉中心】

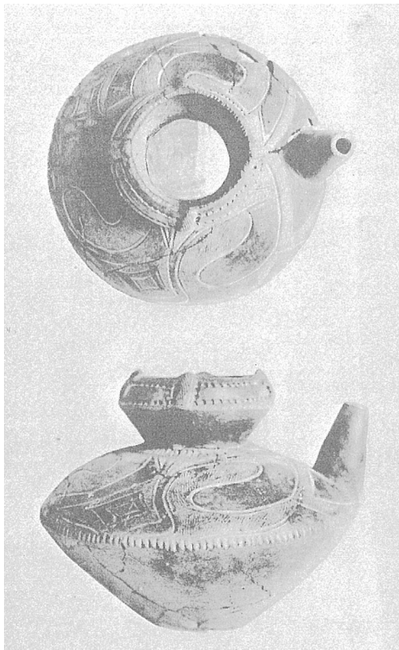


写真 13　八王子貝塚出土注口土器（　吉田富夫　1931「三河国幡豆郡西尾貝塚発見の注口土器に就いて」『考古学雑誌』21-4.295 ～ 298 頁 考古学会　より ）

平成 16 年調査

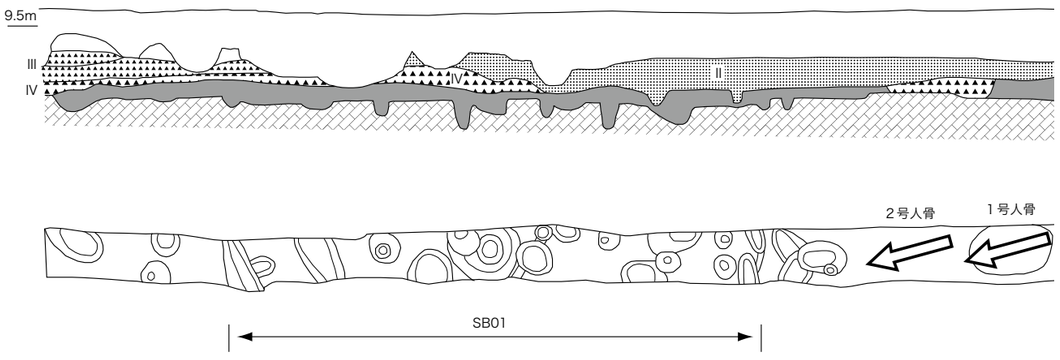


図 15　八王子貝塚 平成 16 年調査平面および土層断面

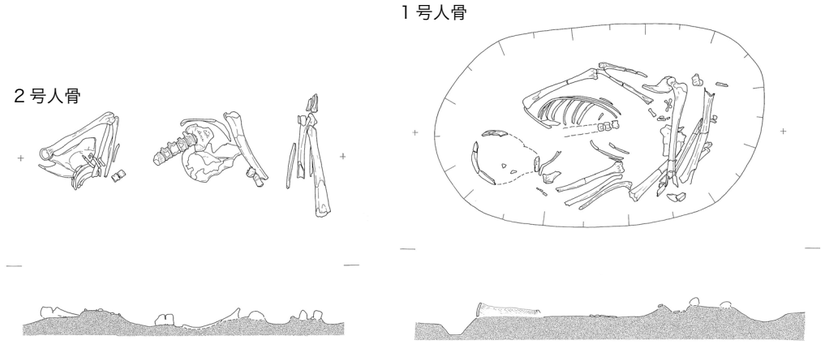
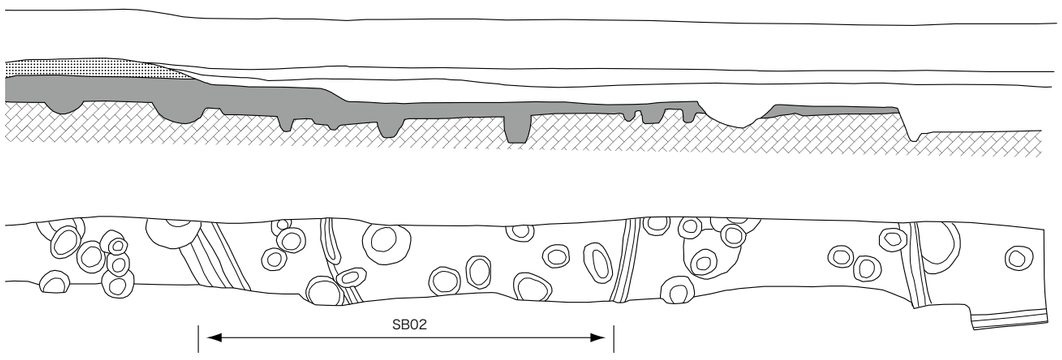


図 16　八王子貝塚 平成 16 年調査人骨検出状況（松井直樹　2005 『八王子貝塚 V』 西尾市教育委員会　より）

写真 14　八王子貝塚出土土偶

（※　西尾市教育委員会 所蔵）



（松井直樹　2005 『八王子貝塚 V』 西尾市教育委員会　より）

0　(1/80)　4m

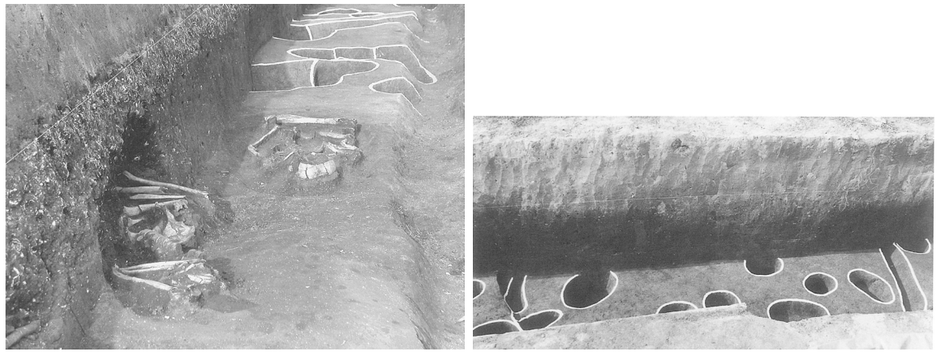


写真 15　八王子貝塚 平成 16 年調査写真

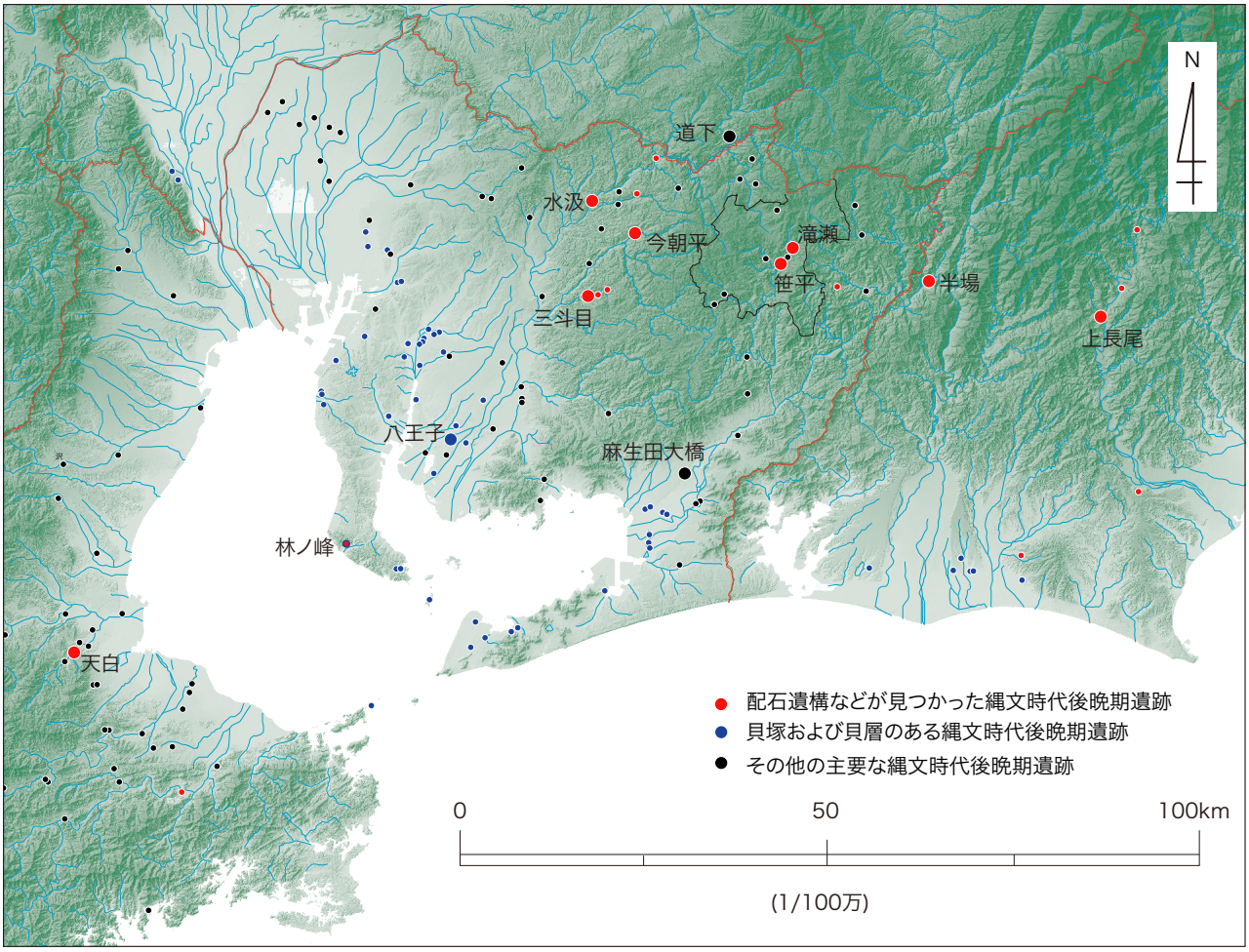


図 17　本日取り上げた遺跡位置図

【※ 1 頁より続き】　の程度と廃棄（埋納）状況は、器種によって異なるようである。また、中には、完全な形で出土するなど特別な出土状況を示すものもあり、その行為の差の背景を読み取っていくことが重要となる。

当時の活動の場であった遺跡では、いわゆる大きな遺跡において、遺物が廃棄や埋納された範囲（人為的に形成された遺物包含層の範囲）で、しばしば建物跡や埋葬遺構が見つかっている。さらに、この遺物包含層の形成の中で、配石遺構などの祭祀関連遺構が築かれることもあり、平面的に俯瞰すると、活動痕跡の重複が激しい状況を呈する場合が多い。

一方、配石遺構の検出されることの少ない貝塚でも、遺跡には、遺物を豊富に包含する貝層とともに、ヒトの埋葬遺構や建物跡なども検出されている。つまりはこのような遺跡形成のあり方が、当時の活動痕跡の基本のようである。貝塚については、当時の魂送りの場であったことが古くから指摘されてきた。内陸部を含めた各地域のいわゆる大きな遺跡では、同様な原理のもとで、遺跡形成活動がなされたものといえよう。

このような魂送り場を有するなど、諸活動が重複する大きな遺跡の存在は、この地域では、縄文時代後期以降に顕在化する。このことは中期までの様相を継続・発展させて、後期以降に祭祀行為が顕在化したものと見ることができるのである。

（※紙面の都合で、文章中の参考・引用文献は省略します。）